

## ご挨拶

「中国人受難者を追悼し平和と友好を祈念する集い」の開催に当たり、西松安野友好基金運営委員会を代表して、ひと言ご挨拶を申し上げます。

1993年から16年間に及ぶ交渉と裁判を経て、2009年10月23日に、中国人受難者・遺族と西松建設との間で、和解が成立しました。和解の骨子は、西松建設が、①広島県安野への中国人強制連行・強制労働に関する歴史的事実と歴史的責任を認め、中国人受難者・遺族に対し深甚な謝罪をする。②謝罪に伴い、受難者・遺族に和解金を支払う。③後世の教育に資するために、事実を記念する碑を安野に建立し、追悼式を開催して、そこに受難者・遺族をお招きする、という3点にありました。

西松安野友好基金運営委員会は、それらの課題を履行するために設立されました。以下、活動の概略を紹介します。

第一は、受難者調査と補償金の支給です。調査の結果、強制連行された360人のうち75%にあたる271人を探し出しました。このうち継承人がいない等の場合を除く248人の受難者・遺族に補償金を支給することができました。

第二は、記念碑の建立です。和解1周年を期して、「安野 中国人受難之碑」を建立し、死亡者を含む360人全員の名前を刻みました。亡くなった方々を追悼するとともに、強制連行の歴史的苦難を後世に伝えるという意味を込めています。地元自治体の安芸太田町、中国電力、善福寺のご協力に心から感謝するものであります。

第三は、故地参観事業です。記念碑の除幕式以来、延べ199人の中国人受難者・遺族が合計6回に分かれて安野を訪問し、追悼や強制労働の現場を巡る活動に参加するとともに交流を積み重ね、和解の意義を確認してきました。記念碑前の追悼式に毎回ご参加いただいている中国駐大阪総領事館にも感謝の念を表する次第です。

2016年6月1日、三菱マテリアル中国人強制連行・強制労働事件についての和解が成立しました。和解内容は、同社が、①中国人強制連行・強制労働の加害の事実とその歴史的責任を認め謝罪する、②謝罪の証として、中国人受難者・遺族らに和解金を支払う、③後世の歴史教育のために記念碑を建立し、追悼事業を行う等を骨子とするもので、これは西松安野友好基金による和解事業の経験に学んだものです。花岡和解があったから、西松和解があり、西松和解があったから、三菱マテリアル和解が出来たのです。

西松安野友好基金は2014年に主要な活動を終えましたが、新たな遺族が判明する可能性に備えてなお運営を続けていますが、2017年末には解散する予定です。そこで、それまでは、基金と「広島安野・中国人被害者を追悼し歴史事実を継承する会」が共同で追悼式を開催いたします。「継承する会」は広島市の市民団体として、とりわけ追悼式をはじめとするさまざまな行事を実質的に担ってこられました。これまでの「継承する会」のご活動に敬意を表するとともに、今後の取り組みの継続を願うものです。

今年は戦争終結から71年を数えます。西松安野和解事業は日中の平和と友好に貢献する草の根の民間交流活動です。こうした積み重ねこそが、未来の日中関係を確固たるものとするでしょう。「安野 中国人受難之碑」が、いつか日中「友好之碑」になることを願ってやみません。

2016年10月16日

西松安野友好基金運営委員会  
運営委員長 内田 雅敏